

土地分類基本調査

林業総合センターでは、10年ほど前から「5万分の1縮尺、都道府県土地分類基本調査」を行っています。

土地分類調査は、国土庁が、「日本の国土の実態を科学的かつ総合的に調査し、国土の開発および保全ならびにその高度化に資すること」を目的として実施しているものです。この調査は下記のように構成され、林業総合センターは5万分の1都道府県土地分類基本調査の土壤図ならびに土地利用現況図の林地に係わる部分を担当しています。

- (1) 5万分の1縮尺 都道府県土地分類基本調査
(事業主体：都道府県)
- (2) 5万分の1縮尺土地分類基本調査 (国)
- (3) 20万分の1縮尺土地分類基本調査 (国)
- (4) 20万分の1縮尺土地保全基本調査 (国)
- (5) 5万分の1縮尺土地保全基本調査 (国)
- (6) 2,500～5,000分の1縮尺土地分類細部調査
(市町村)

< 5万分の1都道府県土地分類基本調査の概要 >

1 調査項目と利用

調査は、国土地理院発行の5万分の1地形図を基本単位とし、既往文献、航空写真解析、ならびに現地補足調査により行われ、以下のような内容で構成された印刷物となっています。

(1) 総論

調査地の位置、行政区画、面積、人口、地域の特徴ならびに主要産業

(2) 各論

地形分類図、水系・谷密度図、表層地質図、土壤図、土地利用現況図ならびにこれらの説明文

①地形分類図

地形(山地、台地、低地、特殊地形)、傾斜(8等級)、起伏量(9階級)が解析され、山地

の急峻度あるいは崩壊地形、地すべり地形などが記載されています。

②水系・谷密度図

表流水系、水系伏流部、および山地の開析程度が読み取れます。

③表層地質図

岩石の種類と生成時代、断層、走向・傾斜、岩体の固さ、風化深さなどが記載されています。

④土壤図

土壤型別の分布が読み取れます。

⑤土地利用現況図

農地(水田、普通畑、果樹園など)、林地(針葉樹人工林、針葉樹天然林、広葉樹天然林など)の分布が読み取れます。

土地生産力の表現因子である、地形、傾斜、地質、土壤などについては、これまでに様々な機関から各種の調査結果が報告されていますが、これらを同一縮尺の地形図上で比較検討できるように表現したものはありませんでした。

また、土壤についてはこれまで農地土壤図、民有林土壤図、国有林土壤図という3種の土壤図がそれぞれの範囲を別個の縮尺で独立的に表現したものが存在するのみで、統括的に全体を表現した土壤図は存在しませんでした。

土地分類基本図により県下全域がカバーされると、こうした利用上の不便さが解消され、自然環境因子の総合的な判断が可能になります。

また、調査により得られたデータがコンピュータマッピングされつつありますので、将来的には特定地域で複数の因子を重ねあわせての立地環境解析などが簡単に行えるようになり、植物、動物、昆虫など多様な生物の生息環境の解析、あるいは森林構造や病虫獣害発生シミュレーションなどが可能になると考えられます。

2 成果品と配布先

(1) 発刊された図幅

松本、坂城、和田、上田、長野、飯田、諏訪・八ヶ岳（近日発刊予定）

(2) 配布先

成果品は非売品で、県関係部局、当該地方事務所関係課、ならびに市町村や図書館に配布されています。

3 これからの予定

これまで、1図幅/年の割合で調査をしてきましたが、長野県は40余図幅で構成されますので、何とか2図幅/年以上にして全県を早くカバーしたいと関係者一同努力しています。

（育林部 片倉）

